

(理事長・大西有三京都大 NPO法人あすの夢土木)

若手技術者36組発表

あすの夢土木ら、関西ゆめプロジェクト 最優秀に中央復建グループ



学名誉教授)と日刊建設工業新聞社大阪支社は9月29日、大阪市中央区のOMMビルで「関西のゆめプロジェクト発表会」を開いた。写真。4回目となる今回は、36件の提案から中央復建コンサルタントの阿部哲也さん、小林輝陽さん、弓場雅斗さんが発表した「砂浜と海上都市の併存する未来の大阪湾構想について」が最優秀賞に選ばれた。表彰式は27日午後3時から「建設技術展2021近畿」の

「あすの夢土木・建設コンサルタンツ協会近畿支部シンポジウム」内で行われる。同発表会は、インフラ整備やまちづくり、観光振興などに対する思いを披露する場として、35歳以下の若手技術者に夢のあるアイデアを求めるとともに、その斬新なアイデアを今後の参考にしよと企画した。冒頭、大西理事長は「発表会は非常に短い時間でしっかりとした内容を分かりやすく伝えることに力点を置いている。夢を持って仕事を続けていけば今後につながるということを通じてもらいたい」と激励した。近畿地方整備局やゼネコン、コンサルト会社など官民の若手36組が発表。1組2分の持ち時間でデジタル技術を使ったアイデアや空中・海中を利用した提案など、それぞれの夢や思いを語った。審査では、あすの夢土木の学識者ら8

人が「夢の創造性・ユニークさ」「提案の実現性」「説明の分かりやすさ」などの観点で評価し、最優秀賞1点、優秀賞2点、夢土木賞5点の計8点を選んだ。最優秀賞に選ばれた阿部さんらは大阪湾南部の工業施設を湾北部の海上に移設し、海上都市を整備するとともに、南部では砂浜を再生し、リゾート施設を整備することで湾全体の魅力向上を図ることを提案した。講評した大窪健之立命館大学理工学部教授は「入賞作品は僅差でいずれも高いレベルだった」と評価。最優秀賞については「非常にスケールが大きい。実行は大変だが効果は大きいと評価された」と語った。近畿整備局の豊口佳之企画部長は「夢はいずれ現実になるものの種だ。夢を描き、それを語り合うことで現実に近いしていく。われわれも夢を描いていきた

い」と閉会のあいさつを述べた。最優秀賞以外の受賞者と発表テーマは次の通り(敬称略、発表順)。
【優秀賞】
▽岡野三三(ニュージェック)「つながる人と人」
「人と自然」
「地下ハイパースペース」
▽森田裕也(中央コンサルタンツ)「土木資材への木材利用促進」
カーボンニュートラル×地域おこしの実現に向けて
【夢土木賞】
▽安藤翔(近畿地方整備局兵庫国道事務所)「高速道路に新たな価値を」
メロディーロードの導入
▽橋本実弥子(丸重屋)「難解!梅田ダンジョンを攻略せよ!!」
▽出水達也(近畿地方整備局河川部河川計画課)「天ヶ瀬ダムトンネルウォーク」
スライダークラウド計画!
▽道頭理緒奈(ニュージェック)「空飛ぶインフラ計画」
エネルギー生産を空中へ
▽橋本優華(大林組)「CPS(サイバーフィジカルシステム)で実現する自分事ドボク」